

やまとの名品

天理図書館



な ら ざら
奈良曝

貞享4年(1687)刊

縦10.8cm 横15.9cm

天理図書館

奈良曝

掲出の書は近世奈良町に関する代表的な案内書で、第五巻巻末に「貞享四丁卯曆孟夏吉日洛南書房西村嘯堂」とあり、貞享四年（一六八七）、洛南嘯月堂より刊行されたものです。体裁や構成は二年前京都で刊行された『京羽二重』に倣ったと思われま

書名の『奈良曝』は当時の奈良の名産品であった麻織物で、京の絹織物「京羽二重」の対になるものとして選ばれたのでしよう。寺社の多い奈良には僧侶の袈裟として需要が高く、室町期には既に布座がありました。天正年間に清須美源四郎が晒法を改良して幕府の保護を受けた

と伝えられ、掲出書刊行の時期には高級布地として珍重されていたのです。

全五巻五冊よりなり、第一巻に各町の紹介、第二・三巻に社寺堂塔・町中名所、第四巻の諸職諸芸・名匠商人、第五巻には奈良から各地への道程を記します。それまで寺社関係の事項で占められていた奈良地誌でしたが、本書は市井の様子がわかる資料となっています。

第一巻では町の紹介の為、市中を三条通りで南北に区切り、南側は更に餅飯殿町通で東西に分け、区画毎に町名をあげて場所・地名の由来・簡略な歴史等を記します。三条通り・餅飯殿



町通は現在も、JR・近鉄各奈良駅の駅前商店街として町の重要な通りです。

当時の奈良町の様子がわかる資料は多くなく、貴重な資料といえるでしょう。

（天理図書館 近江めぐり）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

3月19日、27日～31日は休館。

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）